

北海道ジビエ利活用推進コンソーシアム

別紙 1

項目	現状 (令和4年度)	目標 (令和6年度) ①	目標達成のための具体的な方法	実績 (令和4年度) ②	目標の達成率 (%) ②/①×100	事業実施主体における自己評価	担当課所見
エゾシカ肉の利活用	レシピ 4品 新商品 0品	レシピ 8品 新商品 2品	フードコーディネーターなどと共に、エゾシカ肉の加工品とレシピの開発する。 イベントや販売店でのプロモーションなどを実施	レシピ 12品 新商品 0品	120%	・エゾシカ肉の利活用でのレシピ開発を予定数以上に行うことが出来た。現在はポストカードサイズで印刷したレシピカードを販売店やキャンプ場などで配付を行いエゾシカ肉のPRを行っている。新商品開発では、アウトドアイベントで行った試食会でのアンケート調査結果を基に令和5年度に新商品として1品開発を行い、販売を開始している。通常の店舗での販売のほか、キャンプ場やイベントでの販売を行っているが、反響が大きく今後の食肉の利活拡大への手応えを感じている。現在は、もう1品の新商品を開発途中であり令和6年度中に完成予定となっている。 エゾシカ肉の利活用については、保管方法・集出荷の体制づくりまでは構築出来なかったもののエゾシカ肉の新商品開発及びプレスリリースまで行うことが出来た。今後も継続的に広くPRを行う事でエゾシカ肉の利活用向上に繋げていきたい。	R2年度から稼働の新施設にて、被害対策で捕獲されたエゾシカを活用したレシピと皮革製品の開発を実施している。 エゾシカを活用したレシピ開発では、流通業者やフードコーディネーターとも共同し、消費者ニーズに応じた新商品の開発を行うとともに、アウトドアイベント等での販促活動を行う等、捕獲個体の利活用に資する取組を実施している。 皮革利用では、これまで廃棄されていた皮革を活用することを目的に、なめし業者やデザイナー等と連携し、革製品の開発に取り組んだ。 いずれの取組も、今年度以降の食肉利用や皮革利用の取組に繋がる成果となっており、各事業目標に対し、70%以上の達成率を修めていることから、本提出を以って、事業評価を終了とする。
エゾシカ皮の利活用	皮製品 0品	皮製品 4品	皮の保管方法、集荷経路を含めた集出荷の体制を食肉加工処理施設、運送業者、なめし業者と共同で構築する。 デザイン業者などと共同で皮製品を開発し、イベントなどでエゾシカ皮製品のプロモーションを実施する。	皮製品 4品	100%		

注1 項目、現状、目標、目標達成のための具体的な方法欄については、事業実施計画書様式4の(2)及び(3)から転記する。

2 目標の達成率は小数点第1位を四捨五入して整数で記載する。

レザー・サーカス・アライアンス

別紙1

項目	現状 (令和2年度)	目標 (令和4年度) ①	目標達成のための具体的な方法	実績 (令和4年度) ②	目標の達成率 (%) ②/①×100	事業実施主体における自己評価	担当課所見
ジビエの取扱量目標	適正価格による獣皮供給数	適正価格による獣皮供給数	①「獣皮セミナー」 品質面で皮革製品化に十分な獣革と為すために、アライアンスメンバーの全体会議と獣原皮品質向上セミナーを実施(2022年9月、東京都墨田区、山口産業工場)	適正価格による獣皮供給数		2023年3月末までの事業内で、各自治体及び事業者と共に、鹿革ジャンパーを開発し販売できる体制を築くことが出来ました。製品販売を推進しつつ、アライアンスメンバーとなったジビエ加工所とその所属自治体のPRにも寄与することが出来たため、鹿革ジャンパー以外の活用供給先も出始めたと認識しています。	6道県の処理施設や自治体と広域的に連携し、その多くが廃棄されている皮革の利活用に係る取組を実施した。 鹿革のジャンパーの開発や販売だけでなく、獣皮セミナーの実施やワークショップの開催等、幅広い取組を行い、各事業目標に対し、1件を除き、70%以上の達成率を修めている。 岡山県のみまさかでの目標のみ未達成となったが、参画予定だった地元の革クラフト工場の活動が縮小したことによる影響であり、事業翌年の令和5年度は、新たな取引先を開拓し、目標以上の取引枚数を予定している状況である。 地域のイベント都合による影響や、継続した取組と目標達成の見通しの状況を鑑み、本提出を以って、事業評価を終了とする。
北海道新得町 上田精肉店	780枚	830枚	②「試作開発」 獣皮を活用した獣革試作(200~300枚)と試作製品スタジアムジャンパーを開発(サイズ試着・PR用)。試作革は以下の⑤獣革コースターにも使用	840枚	102%	☆ジビエの利活用に向けて、当初目標のほか実施した取組について以下に記します。 ① 獣皮セミナーを実施 獣皮品質管理マニュアル等の整合を実施した。全6メンバーのうち、5メンバーが参加。	
岩手県大槌町 momiji株式会社	0枚	60枚		60枚	100%		
兵庫県丹波篠山市、カーリマン	0枚	200枚	③「墨田区施策の活用」 墨田区ふるさと納税を活用した、スタジアムジャンパーのダイレクトマーケティング(受注販売会)の実施	180枚	90%	② 試作開発 300枚の獣皮なめし試作と、50着の鹿革ジャンパーを開発した。	
岡山県美作市、地美恵の郷みまさか	315枚	400枚		89枚	22%(*1)		
熊本県山都町、ジビエ工房やまと	0枚	10枚	④「BtoB認知活動」全国自治体・工場・メーカー・ブランド・小売店などを招致するシンポジウム(2022年10月15日、千葉大学墨田キャンパス内。コロナ禍情勢によりウェビナーも検討)や、獣革利活用のメディア・旅行代理店向けものづくり産業観光ツアーの開催	50枚	500%	③ 墨田区施策の活用 ふるさと納税へ掲出した。但し、当該年度は寄付品としてオーダーは無かった。	
鹿児島県出水市 ジビエ食肉処理施設大幸	0枚	50枚		50枚	100%		
ジビエの利用頭数割合	有害捕獲数からジビエ利用を行った頭数		⑤「BtoC認知活動」 都内大手企業の社員食堂、カフェやジビエ料理提供店舗、都市部の大手商業施設における子供向けSDGsワークショップ等と連携したPR戦略(獣革コースター1万部の無料配付)で消費者認知向上を促進			④ BtoB認知活動 ウェビナー1回、リアルイベントを1回開催し、都内某百貨店バイヤーとの取引攻守がスタートした。	
北海道新得町 上田精肉店	780頭/780頭	830頭/830頭 100%		840頭/840頭 100%	100%		
岩手県大槌町 momiji株式会社	260頭/395頭	200頭/553頭 36%	⑤「BtoC認知活動」 都内大手企業の社員食堂、カフェやジビエ料理提供店舗、都市部の大手商業施設における子供向けSDGsワークショップ等と連携したPR戦略(獣革コースター1万部の無料配付)で消費者認知向上を促進	200頭/553頭 36%	100%	⑤ BtoC認知活動 江東区イタリア料理店GIBINOおよび墨田区イベント等を通じて、コースター1万部を配布し、消費者への新たな消費行動動機づけを行った。	
兵庫県丹波篠山市、カーリマン	550頭/580頭	450頭/450頭 100%		380頭/380頭 100%	100%		
岡山県美作市、地美恵の郷みまさか	1506頭/2245頭	1610頭/2300頭 70%		1351頭/1996頭 67%	96%(*1)	⑥ BtoC販売会の実施 2022年12月10日~3月25日まで計13回実施した。	
熊本県山都町、ジビエ工房やまと	596頭/7175頭	650頭/6000頭		50頭/406頭 12%	109%		
						⑦ PRツールの作成	

と 鹿児島県出水市 ジビエ食肉処理 施設大幸 ○ジビエ等の利 活用に向けた取 組	0 頭/314 頭	11% 50 頭/700 頭 7%	⑥「BtoC 販売会開催」 獣革スタジオムジャンパー受注販売 会の開催（毎週土曜日、山口産業内 RUSSETY FACTORY） ⑦「PR ツール作成」 当アライアンスの WEB サイト及びパ ンフレット等の制作・管理	50 頭/855 頭 6%	86%	専用 WEB サイト www.leather-circus.jp による情報発信 と、鹿革ジャンパーチラシを作成し配布した （*1）未達の要因は、地元の革クラフト工場の活動が 縮小されたため。令和 5 年度は、30～49kg の個体の皮 を買い取っていただける新たな取引先を開発し、大幅 に増加している（皮供給数 1000 枚見込み） ○ジビエ等の利活用に向けた取組 ＜今期取り組んでいること＞ MOMIJI ・肉：精肉・加工品の小売りと卸売 ペットフード製造・販売 小売りについては、自社店頭 や自社 EC サイト 給食での提供(令和 6 年に実施予定) ・皮：原皮の販売、なめし革の販売、角革製品の製造・ 販売 ・ツアー：ジビエツーリズムの実施 令和 5 年度中 8 回 程度実施予定(開催済みも含む) ※大槌町内 NPO 団体との連携のもと実施	
北海道新得町 株) 上田精肉店	回収業者への獣 皮販売	十勝町村会と墨 田区連携への参 加		十勝町村会と墨 田区連携へ参加			
兵庫県丹波篠山 市 カーリマン	解体体験・解剖実 習・レストラン向 けの精肉見学	皮なめしワーク ショップ解剖実 習		皮なめしワーク ショップ解剖実 習を実施（日時： 9 月 21 日、場所： カーリマン施設 内）		カーリマン ・鹿の仕留めから精肉までのレクチャー（レストラン関 係者や新規食肉処理施設運営希望者や新規狩猟免許者 を対象・年間 10 件） ・皮作家さんへの鹿革・毛皮販売（年間約 50 枚） ・食育をテーマにジビエイベントの開催運営(年間 5 回) ・動物の餌やおやつ用鹿肉・骨販売（通年）	
岩手県大槌町 MOMIJI（株	—	獣革ワークショ ップの開催		獣革ワークショ ップを開催 （日時：2 月 19 日、場所：大槌町 文化交流センタ ー）		みまさか ・これまで規格外で廃棄していた小さな皮をご購入い ただける販路の開拓 ・より良い肉を取るために猟師の方たちへ向けた止め 刺しマニュアルの作成 ・ニホンジカ内臓の販路開拓 ・各種研修会への参加	
岡山県美作市、 地美恵の郷みま さか	—	なめし工程の理 解、小さなサイ ズの販路開拓		なめし工程の理 解、小さなサイ ズの販路開拓		大幸	

<p>熊本県山都町、 ジビエ工房やま と</p>	<p>—</p>	<p>なめし工程の理 解、食肉加工時の 皮処理技術向上</p>		<p>なめし工程の理 解、食肉加工時の 皮処理技術向上</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・取引先拡大 ・日本ジビエ振興協会との勉強会、処理施設での研修会の開催 ・地元「肉まつり」の出展 ・鹿児島フェスイベントでのレストランとのコラボ出展 	
----------------------------------	----------	---	--	---	--	---	--

注1 項目、現状、目標、目標達成のための具体的な方法欄については、事業実施計画書様式4の(2)及び(3)から転記する。

2 目標の達成率は小数点第1位を四捨五入して整数で記載する。

国産ジビエブランド推進コンソーシアム

別紙 1

項目	現状 (令和2年度)	目標 (令和4年度) ①	目標達成のための具体的な方法	実績 (令和4年度) ②	目標の達成率 (%) ②/①×100	事業実施主体における自己評価	担当課所見
○ ジビエの取扱量目標 長野県富士見町役場	4300 kg (シカ)	3750kg (シカ) 富士見町鳥獣被害防止計画より年間捕獲頭数750 頭に対し 5k g/頭計算	コンソーシアム参画企業・施設と共同し、各所から送られる肉の保存の効率化推進と共に、ニーズに応じた安定したジビエ供給を実施	5400kg (シカ)	144%	順調な取り扱いの上昇が見込まれた	3 件の処理施設と自治体との連携の下、施設の連携促進のためのデジタルプラットフォームの実証や流通事業者向けのジビエの取り扱いに関するセミナーの実施、飲食店を対象としたジビエフェアへの出展と販促活動等、ジビエの流通量の拡大や流通コストの削減に資する幅広い取組を実施した。 一部の取組においては、天候等の影響を受け、目標達成に至らなかったが、その他の各事業目標に対しては、おおむね 70%以上の達成率を修めており、事業年度以降の取組にも資する成果となっていることから、本提出を以って、事業評価を終了とする。
○ ジビエの取扱量目標 鳥取県若桜町	4320kg (シカ)	4500kg (シカ) 若桜町鳥獣被害防止計画より年間捕獲頭数900 頭対 5k g/頭計算	コンソーシアム参画企業と共同し、高級部位の販路開拓、首都圏の飲食店での販売促進等を実施	3080 k g (シカ)	68%	2022 年 9 月の台風 14 号により鳥取県南部の大雨により土砂災害、防風被害で日常的な捕獲が妨げられたため、目標達成できなかった。	
○ ジビエの取扱量目標 宮崎県西米良村役場	24kg (シカフィレ) 1133kg (いのしし)	36kg (シカフィレ) 1350kg (いのしし) 西米良村鳥獣被害防止計画より年間捕獲頭数いのしし150頭シカ580 頭 対 しいのしし 9k g/頭計算	コンソーシアム参画企業と共同し、活用されていなかった夏場のイノシシ肉のニーズ開拓と販路開拓、シカ肉の超高級部位の販路開拓、首都圏の飲食店での販売促進等を実施	61.2kg (シカフィレ) 679kg (いのしし)	50%	2022 年 9 月の台風 14 号により西米良村の処理施設への 1 カ月以上にわたり山道が通行止めとなると共に、いのししが県外へ脱出したとみられる。よって、イノシシの捕獲そのものが大幅に減少したため。いのししについては目標達成できなかった。	
○ ジビエの利用頭数割合 長野県富士見町役場	71% (シカ) (485 頭/679 頭)	71% (シカ) (535 頭/750 頭)	コンソーシアム参画地域及び協力地域と協力し、ジビエ利用に適した加工肉を確保する。猟友会と協力し、ジビエ利用に適した捕獲個体を確保するとともに、信州富士見高原ファームに搬入し、処理頭数を確保する	82% (シカ) (531 頭/644 頭)	115%	目標の処理頭数は確保した。 有害鳥獣捕獲頭数 644 頭 富士見高原ファーム持込頭数 531 頭 ※持込頭数は全て活用している	

○ジビエの利用 頭数割合 鳥取県若桜町	28% (シカ) (864 頭/3000 頭)	30% (シカ) (900 頭/3000 頭)	猟友会と協力し、ジビエ利用に適した捕獲個体を確保するとともに、獣肉解体処理施設わかさ29工房に搬入し、処理頭数を確保する	21% (シカ) (616 頭/2894 頭)	70%	目標の処理頭数は確保した。 捕獲数 2894 頭は若桜町と八頭町の総数。わかさ 29 工房でのジビエ処理等数は 616 頭 その他：114 頭は猟師が自家消費及び埋設
○ジビエの利用 頭数割合 宮崎県西米良村 役場	22% (いのしし) (54 頭/243 頭) 33% (シカ) (241 頭/722 頭)	24% (いのしし) (61頭/250頭) 36% (シカ) (270 頭/750 頭)	猟友会と協力し、ジビエ利用に適した捕獲個体を確保するとともに、西米良村ジビエ加工処理施設に搬入し、処理頭数を確保する	20% (いのしし) (50頭/248頭) 30% (シカ) (204 頭/679 頭)	83% 83%	いのしし (50頭/248頭) シカ (204頭/679頭) の処理数となり、他府県に対して傷物が多く活用に至らなかった。 これは 2022 年 9 月の台風 14 号により利用可能な個体数を十分に確保できなかったためである。
認証処理加工施設の連携促進のためのデジタルプラットフォーム整備	現状無し	コンソーシアムを構成する団体が共通のデジタルプラットフォームを持ち、情報や売り上げなどタイムリーに共有する。情報の一元化と共有を行える。	オリジナルプラットフォームの設計と導入。関係各所のヒアリングを元に必要事項の洗い出しと選定を実施。 ID 付与により貴省の閲覧も可能となる。	納品済み	100%	計画作業と具体的なサイトは実験的に立ち上がったが、実際の運用まで至っていない。 理由は ①当初 1 カ月程度の開発期間想定であったが、必要項目の確定や運用の簡便さに 3 カ月以上の開発期間を要した。実際に運用可能なプラットフォームが立ち上がり、実証実験の中で各施設から配送された肉の行方がタイムリーに把握できる状況にある。 単に施設間の受発注サイトにとどまらず、イベントの様子や、捕獲に関する地域情報、自然被害など地域ごとの話題を共有し、センター施設に対して中期の捕獲見込み情報を提供できるようになった。これによって、センター施設は受注調整が可能となった。 しかし、実際の運用に際しては 3 施設の担当者にオンラインでレクチャーを行ったが、IT リテラシーの問題もあり、運用に積極的な機運にはならなかった。(従来型の運用で満足しているため)。

流通事業者向け ジビエセミナー	現状無し	ヤマト運輸株式会社 向けのセミナーを開 催し、本社事業関係 者からドライバーの 配達員まで ・ジビエの歴史と現状 ・捕獲方法 ・処理技術 ・加工技術 ・衛生管理 ・調理概要を理解頂く	運送会社がジビエの特性を 理解し、適正な扱いで破損 事故等を未然に防ぐなど効 果的な運搬を行うことが可 能になる。 また、運送会社からの要望 や課題を聞き出すことによ り、ジビエ運搬の効率化と 低価格化への情報を収集す る機会が得られる。	実施済み	100%	ヤマト運輸本社コーポレート地域共創 部地域共創部を中心に中国地方を拠点 にジビエを実際に取り扱っている中国 支店長から配送までの方にジビエ取扱 の基本事項から特性までを理解いただ き、今後の取り扱いに寄与できた。クー ル宅急便での配送時間や距離について も情報共有ができ、3処理施設に情報 提供できた。	
流通向けジビエ 用運搬保冷BOX 実証実験・	現状無し	ジビエ専門の冷凍 BOX の実証実験。	ジビエ専門の冷凍BOX が出来上 がることにより、1BOXに無駄 なスペースもなく効果効率的な 運搬が可能になるとともに、運 搬時の衛生状態の管理も可能と なる。 また出荷状況などのトレーサビ リティも可能となる。	実施	試作品作成に 至らなかった。	本取組は、ヤマト運輸との事前調整も 踏まえ、試作品を作成、実証することと していた。しかしながら、実際の設計段 階において、既存の輸送サイズとジビ エのサイズが実務的に合致せず、既存 の輸送方法の方が効率性に勝る等、運 用上の課題が改めて整理されたこと により、やむを得ず、試作品作成を断念し た。	
大丸有SDGs ACT5 での展開	現状無し	エリア内にある約20 0店舗のうち20店舗 の飲食店での定期的な 需要を生むきっかけと する。	飲食店において定期購入が実現 することで、販売ルートの拡大 はもとより、東京丸の内エリア でのメニュー化はジビエのブラ ンド化にも貢献となる。	実施	100%	予定通り20店舗で1カ月にわたり秋 の 国産ジビエフェア開催。期間中 は定期的な需要が発生した。 3処理施設のジビエ取扱量は 期間合 計で166.21kgとなった。 尚、2022年9月の台風14号により西 米良村の処理施設への長期にわたり山 道が通行止めとなると共に、いのしし が県外へ脱出により、いのしし肉の供 給が止まってしまった。	
大丸有エリアに おけるジビエ食 材発注会開催	現状無し	エリア内にある約20 0店舗のうち最低でも 50店舗の飲食店から の受注を達成させる	発注会を通して飲食店シェフ、 飲食店オーナーへ、ジビエにつ いてや部位の説明など商談のた めの情報提供の機会が生まれ る。 また、消費する側や調理する側 からも商品サイズや加工サイズ など売りやすい情報収集の場と	実施 50店舗→40店舗	80%	コロナ禍の中、おおよその飲食店では 新規メニュー開発や、新規食材に手 を出す余裕がなく、当初、予定していた5 0店舗からの参加には届かず発注会参 加店舗10店舗、新規購入店舗は30店 舗。 初めてジビエを食する参加者も多く、 ジビエの魅力に目覚め、活発な質問が	

			なる。			数多く発せられた。また、大丸有 act5 という事業の協力により、会場費の無償提供やエリアでのサステイナブルな食材として 28 万人の就業者にジビエを食材として情報提供できた。 また、大丸有 act5 の協力で 三菱地所株式会社本社社員食堂で 1 週間のジビエフェアを開催いただき、販路拡大とともに社員の方々に好評を博した。
バスあいのり 3 丁目 TERRCE での店舗展開	現状無し	日本全国から食材をバスあいのり便で仕入れているレストランでジビエを取り扱うことにより、サステイナブルフードとしてのイメージ訴求を図る。	富士見高原ファームから高速バスの貨客混載システムを活用して運搬。 舞浜ターミナルから混載便で新宿の店まで運搬。 ジビエを食していただくことが地球環境に優しい行動を訴求。	実施	100%	軽食を中心に新宿エリアの就業者向けに 1 カ月のキャンペーン展開。メニューは鹿肉ボロネーゼピザ/猪肉タコライス/猪肉タコス/猪肉スモークソースバーガー(ポテトセット)/猪肉スモークソースバーガーを提供。 期間中 24k g の消費拡大。 また、3 処理施設の市町村の 広報ビデオを放映し、産地の情報提供を合わせて行った。
高級ホテルレストランシェフ向け試食会開催	現状無し	輸入ジビエのみを扱っている高級ホテルや高級レストラン 10 店舗に国産ジビエ導入の機会を生む。	高級ホテルレストラン・高級レストランのシェフに向けて試食会開催。 合わせて国内の認証制度についての説明を行い、安心安全の証を理解頂く。	実施	100%	18 施設 21 名のシェフやオーナーに参加いただき、調理講習や枝肉解体等、見たことのない技術や調理方法を提供するとともに 3 処理施設から責任者に参加いただき、ジビエの処理加工について現場の生の声を聴いていただいた。実際には、新規取引が発生し、国内ジビエの流通が始まった。 2023 年 3 月 / 5.21 k g 2023 年 4 月 / 8.72 k g 2023 年 5 月 / 9.26 k g 2023 年 6 月 / 6.33 k g / 合計 29.53 k g

餃子図書館 タイアップ企画	現状無し	都内7店舗の無人販売 所にジビエ餃子を納入	餃子専門工場「常陸のまさ」に 依頼しジビエ餃子の制作依頼。 餃子の皮の開発も含めて依頼。	実施	試作を実施し たが、販売まで 至らなかった。	当初、7店舗で餃子専門工場「常陸のま さ」での制作を考えていたが、コロナの 影響で制作会社を「東京餃子楼」に変更 すると共に、販売は1か所にとどまっ た。 ジビエ餃子を実験的に販売し、好評を 得たが、2022年9月の台風14号の影 響により、予定していた供給量を十分 に確保できない状況となり、販売店拡 大を断念した。ただし、お客様には好評 で、新規展開に期待したい。	
------------------	------	--------------------------	--	----	------------------------------	--	--

注1 項目、現状、目標、目標達成のための具体的な方法欄については、事業実施計画書様式4の(2)及び(3)から転記する。

2 目標の達成率は小数点第1位を四捨五入して整数で記載する。

ジビエ広域搬入促進コンソーシアム

別紙 1

項目	現状 (令和2年度)	目標 (令和4年度) ①	目標達成のための具体的な方法	実績 (令和4年度) ②	目標の達成率 (%) ②/①×100	事業実施主体における自己評価	担当課所見
○自治体におけるジビエの取扱量目標及び利用頭数割合	・静岡県河津町 ・シカ 436頭、 イノシシ 275頭 利活用率 0% ※基本埋設処理	・シカ 71% (500頭/700頭) ・イノシシ 0% (0頭/300頭)	・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30名にシカ、イノシシの試食会を実施。 ・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施。	・シカ 37% (156頭/416頭) ・イノシシ 0% (0頭/258頭)	・静岡県河津町 ・52%	・目標頭数の未達理由としては、処理施設担当者の体調都合により、施設稼働日数が制限されたため、予定頭数を処理することが叶わなかったことが挙げられる。	ジビエカーの開発を主に、地域イベントでの試食会の開催や展示等を通じて、地域の状況やニーズに応じた機能や設備等、量産化に向けた諸条件の整理等を実施している。 ジビエカーの製造に際しては、定例会やヒアリング、現地調査等を実施し、既存車両の課題や使用者目線でのニーズを整理、車両の軽量化やバッテリー機構の改善等を設計に反映、ジビエカーの普及に向けた、機能の選別や低コスト化にも寄与している。 処理施設の運営上の事情等により、未達となった項目もあるが、各事業目標に対し、おおむね70%以上の達成率を修めており、事業年度以降の取組にも資する成果となっていることから、本提出を以って、事業評価を終了とする。
	・熊本県天草市 ・シカ 0% (0頭/0頭) ・イノシシ 5% (337頭/6620頭) ・他 0% (0頭/0頭)	・シカ 0% (0頭/0頭) ・イノシシ 5% (375頭/7500頭) ・他 0% (0頭/0頭)	・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30名にシカ、イノシシの試食会を実施。 ・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施。	・シカ 0% (0頭/0頭) ・イノシシ 5% (361頭/7351頭) ・他 0% (0頭/0頭)	・熊本県天草市 ・100%		
	・福井県敦賀市 ・シカ 1,937頭、イノシシ 321頭 利活用率 0%	・シカ 14% (300頭/2100頭) ・イノシシ 0% (0頭/950頭)	・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30名にシカ、イノシシの試食会を実施。 ・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施。	・シカ 11% (205頭/1841頭) ・イノシシ 0% (0頭/338頭)	・福井県敦賀市 ・78%		
	・広島県東広島市 ・シカ 49% (824頭/)	・シカ及びイノシシにて 45% (1500頭/3300頭)	・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30名にシカ、イノシシの試食会を実施。	・シカ及びイノシシにて 35% (1521頭/4324頭)	・広島県東広島市 ・78%		

	<p>1653頭)</p> <p>・イノシシ 20%</p> <p>(337 頭 / 1620 頭)</p> <p>・他 0%</p> <p>(0 頭 / 0 頭)</p>		<p>・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施。</p>	<p>・他 0%</p> <p>(0 頭 / 0 頭)</p>		
<p>・静岡県河津町 / (株)湘南じびえ</p> <p>・シカ 86% (95 頭 / 110 頭)</p> <p>・イノシシ 83% (50 頭 / 60 頭)</p>	<p>・シカ 100% (500 頭 / 500 頭)</p> <p>・イノシシ 0% (0 頭 / 0 頭)</p>	<p>・食肉解体処理施設の開設</p> <p>・狩猟肉の受け入れ開始</p> <p>・ペットフードへの活用</p> <p>・皮革加工へ取組予定</p> <p>・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30 名にシカ、イノシシの試食会を実施。</p> <p>・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施</p>	<p>・シカ 100% (158 頭 / 158 頭)</p> <p>・イノシシ 0% (0 頭 / 0 頭)</p>	<p>・静岡県河津町 / (株)湘南じびえ</p> <p>・100%</p>		
<p>・熊本県天草市 / (株)天草ジビエ</p> <p>・シカ 0% (0 頭 / 0 頭)</p> <p>・イノシシ 100% (130 頭 / 130 頭)</p>	<p>・シカ 0% (0 頭 / 0 頭)</p> <p>・イノシシ 100% (500 頭 / 500 頭)</p>	<p>・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30 名にシカ、イノシシの試食会を実施。</p> <p>・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施。</p>	<p>・シカ 0% (0 頭 / 0 頭)</p> <p>・イノシシ 46% (105 頭 / 230 頭)</p>	<p>・熊本県天草市 / (株)天草ジビエ</p> <p>・46%</p>	<p>・目標頭数の未達理由としては、近隣の新規参入施設との材料確保の競合による影響や、地域の捕獲圧による利活用に適した大型個体の減少等の影響が挙げられる。</p>	
<p>・福井県 / 若狭ジビエ工房</p> <p>・シカ 100% (191 頭 / 191 頭)</p> <p>・アナグマ 100% (4 頭 / 4 頭)</p>	<p>・シカ 100% (300 頭 / 300 頭)</p> <p>・アナグマ 100% (10 頭 / 10 頭)</p>	<p>・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30 名にシカ、イノシシの試食会を実施。</p> <p>・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施。</p>	<p>・シカ 100% (205 頭 / 205 頭)</p> <p>・アナグマ 100% (1 頭 / 1 頭)</p>	<p>・福井県 / 若狭ジビエ工房</p> <p>・100%</p>		

	頭)						
	<ul style="list-style-type: none"> ・東広島市／東広島ジビエセンター(株) ・シカ 25% (206 頭 /824 頭) ・イノシシ 35% (168 頭 /482 頭) 	<ul style="list-style-type: none"> ・シカ及びイノシシにて 45% (500 頭/2000 頭) 	<p>センターの方針として、自社で扱うジビエ肉は、全て当センターの職員が現場に行き、ワナにかかった鳥獣を止め刺しして、状態・鮮度を確認の上、引き取る事している。ジビエカーが導入されれば当職員の作業効率も大幅に向上する事が見込まれ、当センターでの受け入れ頭数および食用肉の取扱量の向上につながると期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸の内プラチナ大学にて社会人向け SDGs 講習会にて受講生 30 名にシカ、イノシシの試食会を実施。 ・日崎工業(株)ジビエカーモックアップ検証会にてコンソーシアム構成メンバー20名にシカ、イノシシの試食会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・シカ 100% (894 頭/894 頭) ・イノシシ 100% (627 頭/627 頭) 	<ul style="list-style-type: none"> ・東広島市／東広島ジビエセンター(株) ・222% 		
○広域搬入によるジビエ利活用拡大の目標	<p>4 市町による広域搬入に向けた意見交換会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・4 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域搬入に向けた地域の課題や本広域コンソーシアム事業にて検討する小型ジビエカーについての意見交換を実施し、現場の声を課題解決に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・100% <p>○ジビエ広域搬入促進用小型ジビエカー開発のための意見徴収(オンライン)</p> <p>令和4年7月13日(設立総会)～令和5年2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4 市町による広域搬入に向けた意見交換会の実施 ・100% 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンソーシアムにおける協力体制の構築 当コンソーシアムでは4市町村及び4施設の方々を協力パートナーとして選定、定例会やヒアリング、現地調査などを通じ、各地で抱える有害鳥獣被害の実態や問題の解決に向けた取り組みなどの情報を共有し、プロジェクト成功に向けて建設的な意見交換をすることができた。 ○前車輛の問題点への対応 	

			<p>28日まで 合計5回実施。</p> <p>○モデル地域への仕様確認（4都市訪問） 令和4年12月15日～22日実施</p> <p>○モデル地域への報告 1/1モデル検証会開催（神奈川県川崎市） 令和5年3月15日実施。 ・地域へのジビエ販売促進（試食会）1/1モデル検証会にて試食会開催 ・ジビエ広域搬入促進用小型ジビエカー開発設計（1/1モデル完成） ・小型ジビエカー試作車両向け解体室コンテナ付属設備設計 ・小型ジビエカー試作車両向けコンテナ製作 ・小型ジビエカー試作車両向けコンテナモックアップ設備試作</p>	<p>定例会やヒアリング、現地調査を通じ前車輛の問題や改善点を収集し、その意見を小型ジビエカー1/1モックアップ開発に反映した。</p> <p>（前車両の問題点） ・車輛が大きすぎて細い山道での作業に不向きであった。 ・装備は十分であるが、操作手順が複雑すぎる。 ・車両価格が高額。 これらがジビエカー導入の妨げとなっており、今回の開発にあたり改善する必要があった。</p> <p>（今回の開発ポイント） ・小型軽量化 ・作業中の冷蔵システムの電源確保方法 ・コンソーシアムメンバーへのヒアリングを通し、搭載する装備の見直し選別を行った。また、設計や材料選定も行い、シェル本体の強度を落とすことなく小型軽量化することに成功した。 ・電源問題についてもバッテリーの追加搭載ではなく、エネルギーマネジメントシステムを搭載することにより解決した。充電残量を管理しつつ、走行充電で補充電することにより必要な稼働時間を確保することができ、同時に車両の軽量化、低コスト化を成功する事ができた。</p> <p>○法的規制とコンプライアンス 衛生管理の方法など複数の省庁が管理する法的規制やコンプライアンスに適合しているかどうかを担当省庁に確認を取りながら製作にあたった。</p> <p>○検証会、試食会の実施 ・令和5年3月15日、コンソーシアムメ</p>
--	--	--	---	---

				<p>製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型ジビエカー試作車両向けコンテナモックアップ設 	<p>ンバー及び試作車両開発協力業者を日崎工業株式会社へ招き、完成した小型ジビエカー1/1 モックアップを用いて検証会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬車外クレーンを使用して、と体（模型使用）の積込から解体、冷蔵保存まで一連の作業を再現、操作方法や作業環境等の検証、意見聴取を行った。 ・検証会終了後、コンソーシアムメンバーの施設より仕入れたジビエ肉で、ジビエ試食会を行った。 <p>○今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証会にて必要な装備が無駄なくコンパクトに収まっており、前回のジビエカーより使い勝手が良さそうであるとの評価を得ることができた。 ・各地の解体処理施設の使用条件（立地や捕獲対象、処理方法）の違いから、要望やリクエストにかなり差があることが分かった。 ・量産化に向けどこまで標準仕様にすべきか、価格設定も含めて再検討の余地がある。 	
--	--	--	--	---	--	--

注1 項目、現状、目標、目標達成のための具体的な方法欄については、事業実施計画書様式4の（2）及び（3）から転記する。

2 目標の達成率は小数点第1位を四捨五入して整数で記載する。

MEGUMI PROJECT コンソーシアム

別紙 1

項目	現状 (令和2年度)	目標 (令和4年度) ①	目標達成のための具体的な方法	実績 (令和4年度) ②	目標の達成率 (%) ②/①×100	事業実施主体における自己評価	担当課所見
ジビエ(皮)の利用頭数割合	0% (0頭/2316頭)	2.2% (50頭/2316頭)	鹿革の需要拡大に適した大きさや品質を見極め商品価値が高い物を選別の上、利用していく。	3.7% (80頭/2139頭)	168%	キサラエフアールカンパニーズで食肉処理の際に発生する鹿革の原皮を活用して、革素材へ活用。個体の違いを識別し、様々な用途に向けた鞣し革の製造に繋げた。	ジビエ処理施設やプロモーション事業者等と連携し、皮革を活用した商品開発だけでなく、皮革の保管方法や効率的な集出荷体制を検討し、開発商品の流通やその拡大も踏まえた取組を実施している。 また、開発した商品のブランド化と展示会での販促活動を実施する等、皮革の利活用に資する幅広い取組を行った。
鹿革のPR活動推進	展示会の出展0件	展示会の出展2件	鹿革の商標登録を進め、イベントや展示会でのプロモーションなどを実施。また教育機関と連携した企画を展開し、次世代消費者への需要喚起を図る。	1件	50%	<ul style="list-style-type: none"> 鹿革の市場浸透を図ることを目的に、ブランドロゴ、パンフレット、ホームページを作成。パンフレットを揖斐川町役場、キサラエフアールカンパニーズ、五十鈴等に設置し、PR活動を実施した。 このような活動を通じて、革製品会社や鳥獣被害に関心のある芸術家など幅広い業種の方々との接点を創出できたと感じている。 展示会の出展は、過年度の開催実績等を参考に、当初2件を予定していたが、事業年度に開催された展示会の多くは、取組の趣旨や目的に合致せず、効果的なPRに繋がる場ではなかったため、1件の出展にとどまった。 	出展予定だった展示会の開催内容が取組の趣旨等に合わず、やむを得ず未達となった目標以外は、70%以上の達成率を修めており、事業年度以降も継続した取組をおこなっていることから、本提出を以って、事業評価を終了とする。
鹿革の新商品開発	革製品0品	革製品2品以上	自然由来の革を鞣し業者と共同し製造。デザイン業者など共同で製品開発を行い、イベントなどの機会を通じて、商品価値のブラッシュアップを進めていく。	6品	300%	<ul style="list-style-type: none"> キサラエフアールカンパニーズで食肉処理の際に発生する鹿革の原皮を活用し、新敏製革所にて自然由来の皮革を製造。 自然由来の皮革を「MEGUMI Leather」として、鹿革のPRも兼ね、以下のサンプル品を製造した。 現在も、使い勝手の検証を進めると共に、市場投入する製品の検討を進めている他、小物製品だけでなく、衣服の製造も検討し、用途拡大を進めていきたいと考えている。 	

						<p>(製造した商品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Leawood : 名刺入れ、ペンケース、アウトドア向けチェアカバー ・KUIPO : 女性向けバック 3 種類 	
流通システム構築	流通経路 0 件	流通経路 1 件	皮の保管方法、集荷経路を含めた集出荷の体制を食肉加工処理施設、輸送業者、鞣し業者と共同で構築する。	1 件	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・キサラエフアールカンパニーズにて鹿革原皮の保管・輸送を行い、新敏製革所からの鞣し革の入荷とサンプル製造までのプロセス確認等を実施し、効率的な集出荷体制の構築を実施した。 ・現在も、他県でも同様のプロセスが可能かを調査している。 	

注1 項目、現状、目標、目標達成のための具体的な方法欄については、事業実施計画書様式4の(2)及び(3)から転記する。

2 目標の達成率は小数点第1位を四捨五入して整数で記載する。